

web 勉強会におけるイラストレーションの活用

視聴者の興味を引き、イメージを伝えるために

○伊藤悠介

(大雄会第一病院形成外科)

要旨：院内で褥瘡勉強会を開催するにあたり、Microsoft PowerPoint のスライドに掲載するイラストを作製した。視聴者の興味を引くために、勉強会の主な対象である看護師をイメージしたキャラクターのイラストを自作した。キャラクターと一緒に勉強をしていくようなイメージとし、また勉強会の途中で飽きが来ないように、既存の漫画やゲームのパロディなど全体にコミカルなタッチのイラストとした。またイラストを載せることで、文章やシェーマだけでは理解しづらい内容でも視覚イメージから理解の助けとなると思われる。

キーワード：web 勉強会、漫画、褥瘡

1 はじめに

2021 年度、および 2022 年度に筆者が院内スタッフを対象にした褥瘡勉強会の講師となり Microsoft PowerPoint のスライドを作成するにあたり、スライド中に掲載した自作のイラストレーションを紹介させていただく。

新型コロナウイルスの流行により院内勉強会のほとんどが web 視聴となった結果、勉強会の内容が解りづらかったり退屈であったりすると残念ながら視聴者には興味を持ってもらえない。そこで筆者は少しでも視聴者の注意を引くように、スライド中に自作のイラストを掲載した。特に内容が解りづらいと思われる箇所には積極的にイラストを掲載し、視覚イメージにより理解の助けになるようにした。

2 実際のイラスト

イラストレーションをどのように使用したかを、スライドの流れに沿って掲載していく。

2-1 導入

イラストのコンセプトを褥瘡勉強会の主な対象である看護師をイメージした女性のキャラクターとし、スライドの表紙から視聴者と一緒に勉強をしていくようなイメージとした (図 1 左上)。まず「褥瘡」の言葉を説明するにあたり、「褥瘡≒床ずれ」「褥=しとね=布団」のイメージとして布団で眠っているイラストを作成した (図 1 右上)。

そして形成外科が行う日々の褥瘡処置 (特にベッドサイドでのデブリードマンや、軟膏と被覆剤の変

更など) が病棟スタッフにとって負担になり得ること、しかしその処置は「wound bed preparation」という考え方に依っていることを示した (図 1 左下、右下)。



図1

2-2 TIME コンセプト

「wound bed preparation」とは「創傷治癒を妨げる因子を除き、創傷治癒機転が正常に稼動するよう環境を整備すること」である。そしてその「創傷治癒を妨げる因子」は 4 つの項目の頭文字を取って

「TIME コンセプト」と呼ばれており、それぞれの項目の解説に移る。「T」は壊死組織・不活性組織を示し、「I」は感染・炎症を示す。感染を制御するた

めに創傷の消毒を行うか否か、「傷と言えば消毒」という考え方と「消毒は絨毯爆撃のように正常な細胞も傷害してしまう」という考え方の対立があることをイラストで示した（図2）。

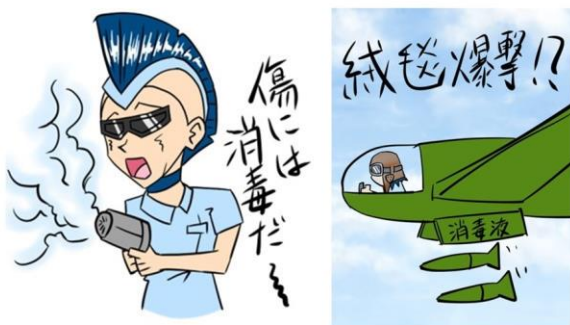


図2

続いて TIME コンセプトの「M」は適切な湿潤環境を示す。その基本は軟膏などの外用剤による浸出液のコントロールであるが、軟膏について一から勉強するのはなかなか難しい（図3上）。そこで軟膏を創傷の浸出液を保持し wet に保つ疎水性（油脂性）基剤と、創傷の浸出液を吸収し dry に保つ親水性（水溶性）基剤の2種類に分ける考え方を提示した（図3下）。



図3

また浸出液のコントロールの観点から、近年多用

される局所陰圧閉鎖療法（NPWT）についても説明した。NPWT のイメージは創傷の浸出液を吸収する作用と、陰圧をかけて創傷を物理的に縮小させる作用を併せ持つというものである（図4）。

TIME コンセプトの「E」の病的創縁とポケットについては後述する。



図4

2-3 スキンテア

最後に褥瘡に関連してスキンテアについても説明した。スキンテアは皮膚の脆弱な高齢者に好発し、摩擦（・ずれ）によって表皮（および真皮）が下層から分離して生じる外傷性創傷である。分離した表皮（および真皮）を下層に縫合、または医療用テープで固定すれば治癒すること多いが、そのためには表皮（および真皮）を皺にならないようにすることが必要である。そのコツは「キャンバスを木枠に張るように」することである。そのイメージを補強するため、イラストを使用した（図5）。



図5

2-4 追加のイラスト

2022 年度に褥瘡勉強会を再度行うこととなり（ただし 2021 年度が病院全体のスタッフを対象とした

のに対し、2022 年度は形成外科診療に携わる機会が多い一部病棟が対象である)、初回の反応を参考に一部の内容を改定、追加した。

まず TIME コンセプトの「T」に関連し、褥瘡と間違えやすいがデブリードマンを行ってはならない潰瘍に虚血性潰瘍がある。見分け方に潰瘍の周囲に発赤がリング状に見える「red ring sign」が挙げられる。それらが印象に残るように、イラストを使用した(図 6 上)。手に持った赤丸に斜線の札が red ring sign のイメージである。



図6

続いて、「M」に関連し、軟膏の分類を wet⇔dry の X 軸と、治癒促進作用⇔抗炎症・殺菌作用の Y 軸で表したチャートで示した。軟膏もタイプ別に分類して覚えると良いというイメージで、人気ゲームのキャラクターのパロディのイラストを使用した(図 6 左下)。

「E」については、病的創縁という言葉では伝わりにくいため、オーバーハングした崖のイメージをイラストで表現した(図 6 右下)。

次に日々の褥瘡処置の流れを説明するのに、料理番組をイメージしたスライドを作成した。そのときに料理番組のテーマ曲を流し、有名な料理研究家風

のイラストを使用した(図 7)。

きょうの褥瘡処置



図7

最後に、スキンテアが発生したときに「デュオアクティブ® (コンバテックジャパン株式会社)」という創傷被覆材で表皮(および真皮)を固定しているケースが度々たびたび見られるが、スキンテアの固定にはデュオアクティブは不適當であり、むしろ感染を惹起することがあることをスライドで示した。その際にデュオアクティブの通称である「デュオ」に似た名前の漫画のキャラクターのパロディのイラストを使用した(図 8)。

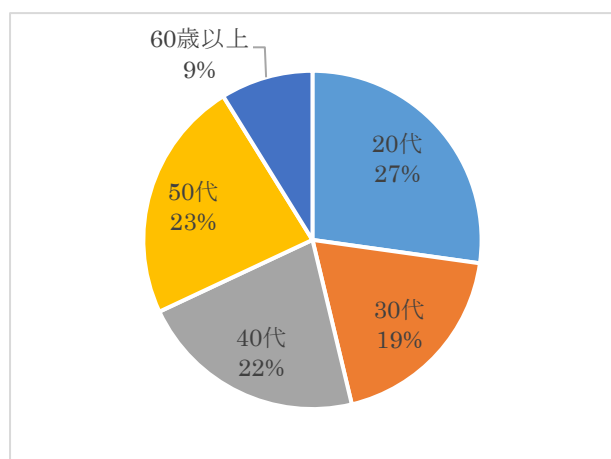


図8

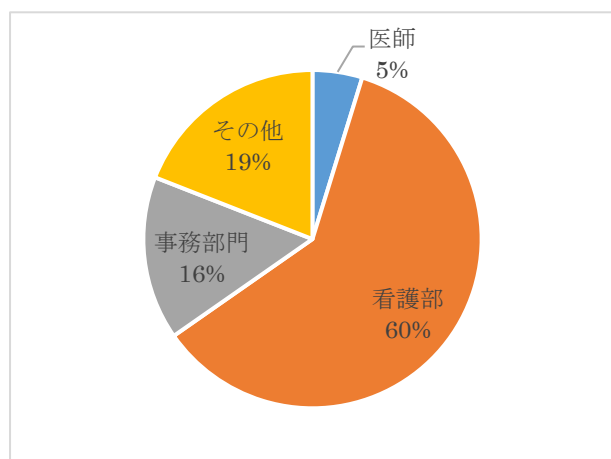
3 アンケート結果

2021 年度の褥瘡勉強会の視聴者を対象にアンケートを行ったところ、147 名から回答があった。イラストレーションについてはなく研修全体についてのアンケートであるが、その結果を円グラフで以下に示す。

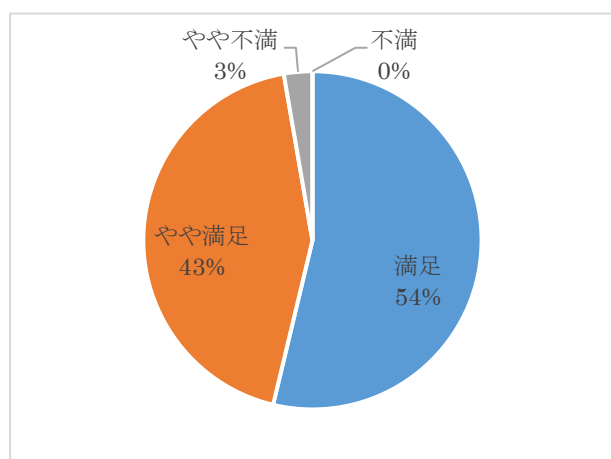
3-1 年代 (グラフ 1)



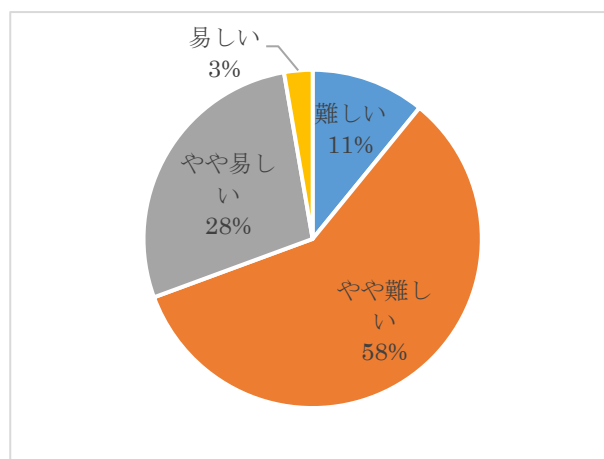
3-2 所属 (グラフ 2)



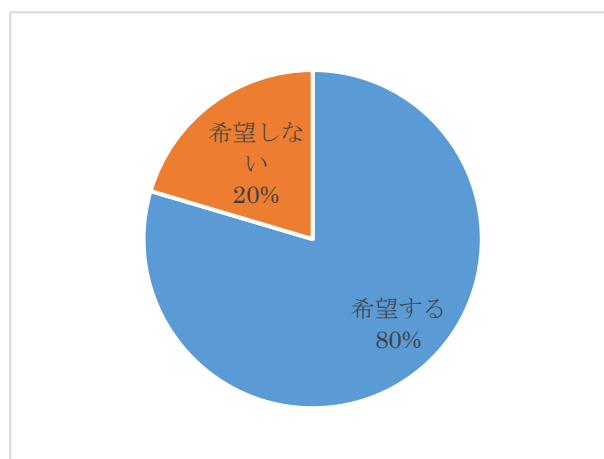
3-3 研修内容の評価 (グラフ 3)



3-4 研修内容の難易度 (グラフ 4)



3-5 今後同じようなテーマの研修を希望するか (グラフ 5)



3-6 自由記載

- ・創傷管理は看護の質向上に重要です。事例を通じて今後もお願いします。
- ・最新の情報は常に知りたい。
- ・とても勉強になりました。(中略) 実際の褥瘡がどんな状態なのかをセラピストが目にする機会はありませんので、患者さんの状態を知る機会をいただきました。
- ・何度でも行ってください。
- ・褥瘡とは種々の原因で発生することが分かった。出来てしまったのを治すのはとても大変なことなので作らないことが一番大切だと感じた。
- ・とてもわかりやすく説明してくださりありがとうございます。
- ・医師の立場からの話だったので、今までで一番よく分かった。

3-7 アンケート結果の分析

アンケート結果から、2-1 導入で研修の主な対象と設定したとおり、視聴者の過半数は看護師であることが分かった（グラフ 2）。また、年代は満遍なく視聴されていた（グラフ 1）。

研修内容についてはグラフ 3 をみると 90%以上の視聴者が「満足」「やや満足」、同じようなテーマの研修を希望するかについてのグラフ 5 では 80%の視聴者が「希望する」と回答していることから、概ね好評であったと思われる。

しかし自由記載で「わかりやすかった」と回答している視聴者がいる一方で、グラフ 4 で「難しい」「やや難しい」の回答が約 70%を占めた。極力理解しやすいスライド作成を目指したが内容の難しさを払拭するには至らず、今後の課題と考える。

なお、アンケート以外に勉強会後の周囲の何名かにイラストレーションについての感想を聞く限り、イラストを使用したことで「印象に残った」「わかりやすかった」「イラストの元ネタがわかった」など概ね好意的な反応であった。

4 おわりに

新型コロナウイルスの流行により大人数が集まるでの勉強会が困難となり、当院では録画した映像を web で視聴するスタイルの院内勉強会が主流となった。web での視聴は時間と場所を選ばないという利点がある一方で、忙しい医療者には他の業務を行いながら視聴する「ながら見」をされがちと言う欠点がある。また勉強会を行う側としては聴衆の反応が掴めず、また質問も受けられないため、いかに内容を解りやすく伝えるかという課題がある。

これらの欠点・課題に対して、イラストレーションの使用に期待できる効果の一つとして、「ながら見」をしている視聴者の興味を引きつけられることが挙げられる。イラストを既存の漫画やゲームのパロディなどのコミカルなタッチとすることで、更に視聴者の目を引く効果があると思われる。また、今回の勉強会の内容が褥瘡についてであり、褥瘡の写真の

ともするとショッキング、グロテスクな印象を緩和することもできるかもしれない。二つめの効果として、文章、シエーマや口頭での説明では伝わりにくい内容を、視覚イメージに訴えることで理解の助けになることが期待できる。

今後も web での勉強会や学会発表が増加することが予想され、イラストレーションを活用することで、より効果的な発表を行うことができると考える。